

# 家庭



## (10) 家庭

観 点	着 眼 点
1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	(1) 生活の営みに係る見方・考え方を働かせながら、日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し、様々な解決策を考える学習など、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた工夫 (2) 調理や制作等における体験を通して、生活の中の様々な言葉を実感を伴って理解したり、観察や実習等の際のレポート作成や考察、思考したことを発表したりするなど、言語活動を充実させるための工夫 (3) 情報活用能力の育成に向け、ICTを活用した学習活動の充実を図るための工夫 (4) 学習の見通しを立てたり、学習したことを振り返り、自己の成長を感じたり、学んだことをもとに自らの生活に生かしたりすることができるような工夫 (5) 衣食住などに関する実践的・体験的な活動を設定し、その活動を通して児童の思考力・判断力・表現力が育成される工夫や、基礎・基本から応用へと児童の発達段階に応じた系統的な配列の工夫 (6) 児童の興味・関心を生かし自主的、自発的な学習を促すための工夫 (7) 他の教科等との関連を図るとともに、地域や学校の実態に応じた指導の工夫
2 使用上の便宜	(1) 内容の配列、分量についての特徴 (2) 判型、分冊等、造本上の特徴 (3) 目次、索引、注、巻末資料等の工夫 (4) 特別な配慮を必要とする児童等への配慮
3 その他	施設・設備の安全管理に配慮し、学習環境を整備するとともに、熱源や用具、機械などの取扱いに注意して事故防止の指導を徹底するための工夫

種 目	教 科 書 の 名 称	発行者の番号・略称
家 庭	新しい家庭	2 東書

1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫

- 生活の営みに係る見方・考え方を「家庭科の窓」として設定し、すべての大題材のタイトル横に示すことで、どの題材でどの視点を重視するかが一目でわかるよう示されている。また、各大題材には、学びを深めるために必要な活動が明確な指示と共に示されている。

〔例〕 P6 主に、協力の視点で考えよう、P14 主に、健康・快適・安全、生活文化の視点で考えよう、P32 主に、持続可能な社会の視点で考えよう

P96～104 活動1「考えよう」 活動2「やってみよう」 活動3「話し合おう」  
活動4「やってみよう」 活動5「深めよう」 等

- 消費者教育と生活の営みに係る見方・考え方の一つである「持続可能な社会の構築」の視点を重視し、第4大題材で消費者としての基本的な知識や態度が身につくよう配慮されている。

- 全学習項目で問題解決的な学習が繰り返し行える構成（ステップ1「課題発見」見つけよう→ステップ2「課題解決・実践活動」計画しよう・実践しよう→ステップ3「評価・改善」生活に生かそう・新しい課題を見つけよう）になっており、目的や見通しをもちながら取り組めるよう工夫されている。また、ステップ1や2では、「話し合おう」「やってみよう」「調べよう」等で主体的・対話的な学びにつながる活動、ステップ3では、友だちや地域の人々への発表・発信も含めた「言語活動の充実」につながる活動が組み込まれている。

〔例〕 P6 ステップ1「どんな生活をしているのかな」、ステップ2「自分にできそうな家庭の仕事を見つけよう」、ステップ3「できることを増やしていこう」 等

- 調理や製作などの基礎技能に関しては、動画コンテンツを活用できることを表す「D」マークが示されている。

〔例〕 P17 包丁の使い方、P18 皮のむき方 等

- 各小題材に「めあて」と「ふり返ろう」を、また「5年生のまとめ」「2年間のまとめ」を設けることで、学習内容が定着し、自分の成長が実感できるよう工夫されている。

〔例〕 P88 めあて「夏に快適に過ごすための住まい方や衣服の着方、手入れができるようになるろう。」 P93 ふり返ろう「夏を快適に過ごすための住まい方や衣服の着方、手入れができるようになりましたか。」 等

- 発達段階に応じた知識・技能の習得ができるよう、製作や調理実習題材が組み込まれている。特に巻末資料「いつも確かめよう」は、第5学年で学んだ技能を第6学年で再度使うことで、より確実な定着を図るよう配慮されている。また、写真とイラストを使うことで分かりやすく、児童の意欲・関心を高める工夫がされている。さらに、作るものを複数提示し、学校や児童の実態に合わせて選択できるよう工夫されている。

〔例〕 P16「ゆでる調理をしよう」（5年）→ P108「1食分の献立を立てて、調理しよう」（6年） P25「手ぬいにトライ!」「マイ・ミニバッグ」（5年）→ P97「ふくろやかバー」（6年） 等

- 食生活に関わる4つの題材の学習を食育の目標と密接に関連させており、「食事の重要性」「心身の健康」「食品を選択する能力」「感謝の心」「社会性」「食文化」の面から指導できるよう構成されている。

- 家族・家庭、衣食住、消費・環境など、すべての分野で日本の伝統的な生活に関わる文化や資料が取り上げられている。

〔例〕 P42 ご飯、P44 みそ汁、P57 もったいない、P63 日本てぬぐい 等

- 学んできたことを生かして、長期休業の前に、生活の課題を見つけ解決に取り組む「生活を変えるチャンス！」が設けられている。実践の進め方や課題例・実践例が挙げられており、児童が自主的に取り組みやすくなるよう工夫されている。

〔例〕 P61 「生活を変えるチャンス！②」自分の課題を見つけ、家族や地域の人々と関わりながら、計画を立てて取り組みましょう。「年末そうじ大作戦」等

- 地域の人々との関わりを大切にし、自らが地域の一員であることに気づき、感謝するとともに、地域の一員として自分にできることを考えられるような資料が提示され（家庭や地域をよりよくしていこうとする実践の紹介、地域の人やプロの人へのインタビュー記事を載せる）、仕事や生活への興味・関心を高めるよう工夫されている。

〔例〕 P124 私から地域につなげよう！ 広げよう！ P126 地域を笑顔に

P127 地域の一員として P22、P38、P49、P94等 プロに聞く！ 等

- 他教科の学びや中学校家庭分野と関連づけた学習ができるよう、工夫されている。また、家庭科に関係ある英単語を脚注に掲載し、次ページに日本語を示すなど英語の学習との関連が図られている。

〔例〕 P17 vegetable→P18 野菜、P55 clean→P56 そうじをする等

## 2 使用上の便宜

- 巻頭ページでは、第5学年から始まる家庭科とはどのような教科であるか、また学ぶ意義がイラストとともに示され、児童のやる気を引き出すと同時に、第6学年までの二年間の学習の見通しがもてるよう工夫されている。さらに、成長の振り返りとして、第4学年までに学んだ他教科との関連も示されている。

- 判型はA4判を採用し、生活に必要な基礎的・基本的な技能が巻末の「いつも確かめよう」にまとめられ、児童が実際に手をのせて練習できる実寸大写真がつけられている。また、配色やデザインについて色覚の多様性に配慮するとともに、ユニバーサルデザインの字体を使用するなど、児童が学習しやすいよう工夫されている。

- 表紙は児童がさまざまな世代の人と交流する様子が描かれ、その中には買い物や調理、製作、団らんなど、これから学習する内容が説明とともにまとめられており、いつでも確認して学習できるよう工夫されている。

- 児童の理解を促す手助けとなるよう、各ページの上部には大題材の領域を示すマークが、教科書全体には16種類のマークが使われている。

- 児童の理解を促す役割を果たすよう、脚注には、家庭科で使われる専門的な用語が解説されている。

- イラストや写真などが性別による固定的な役割分担にならないようにするとともに、高齢者、障がいのある人、外国から来た人との関わりを通して共生の視点に気づくことができるよう配慮されている。また、さまざまな家族形態があり、どれもかけがえのない家族であることに気づかせ、児童の自己肯定感を高める指導ができるよう配慮されている。

〔例〕 表紙、P6、P58、P74、P77、P86、P116 等

- 食物アレルギーについては、本文や図で取り上げ、食品や表示を確認するよう促している。

## 3 その他

- 調理や製作における器具・用具の扱い方、作業上の安全、衛生面など、安全に注意すべき点を解説するとともに、注意喚起のための「安全マーク」が示されている。さらに、調理実習、製作実習、地震が起こったときに関する記述が巻末にまとめられ、繰り返し確認できるよう工夫されている。

種 目	教 科 書 の 名 称	発行者の番号・略称
家 庭	小学校 わたしたちの家庭科	9 開隆堂

## 1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫

- 生活の営みに係る見方・考え方の視点を「協力・助け合い」「健康・快適・安全」「生活文化」「持続可能な社会」として設定し、それぞれに印を決め、案内役の四つ葉のクローバーのキャラクター近くに配置している。どの題材でどの視点を重視するかが、一目でわかるように示されている。

〔例〕 P1～2「はじめよう！家庭科」、P102「洗剤の量とよごれの落ち具合」等

- 消費者教育と共通することを大きく2つの題材で取り上げ、他の題材の中でも関連づけて取り扱い、消費者としての実践的態度が身につけられるよう工夫されている。

〔例〕 P28～33「整理・整とんで快適に」

P58～63「生活を支えるお金と物」

- 全学習項目で問題解決的な学習が繰り返し行える構成（「1 見つける・気づく」→「2 わかる・できる」→「3 生かす・深める」）になっている。児童が自分のこととして自分の生活を見つめ、問題に気づくための導入がしやすいよう各題材の最初には大きな写真やイラストが使われている。また、「考えよう」「調べよう」「やってみよう」「話し合おう」など、話し合いの活動や思考する活動、意見を述べる活動など言語活動の充実につながる活動が設定されている。

〔例〕 P90～93「クリーン大作戦」等

- 調理の様子や製作の仕方、実験など、動画コンテンツを活用できるページには二次元コードが示されている。

〔例〕 P15「②③青菜・いもをゆでるとどうなるのだろう」

P40「③布をぬってみよう」、P128～129「生活の中のプログラミング」等

- 学習内容が定着し、自分の成長が実感できるよう、各小題材に「学習のめあて」、「できたかな」、「ふり返ろう」が、第6学年の終わりに2年間の学習の振り返りが設けられている。また、家庭科の学習を振り返り、そこで見つけた新しい課題を解決するための取組「レッツトライ」が3点例示されている。児童が取り組みやすいよう課題解決に向かうステップが示されている。

〔例〕 P126～127「2年間の学習をふり返って、中学校の学習に生かそう」

〔例〕 P76～79「レッツトライ 生活の課題と実践」

- スモールステップで繰り返し積み重ねて基礎・基本の知識・技能の習得が着実にできるよう、発達段階に応じた製作や調理実習題材が組まれている。また、写真とイラストを使うことでわかりやすく、児童の意欲・関心を高める工夫がされている。さらに、学校や児童の実態に合わせて選択できるよう作るものが複数提示され、★印で難易度が示されている。

〔例〕 P10「クッキング はじめの一步」→ P112「こんだてを工夫して」

P20「ソーイング はじめの一步」→ P104「生活を豊かに ソーイング」

P44～47 ③制作しよう（①ランチョンマット、②マルチカバー、③クッションカバー） P115「いろいろなおかずの例」

- 食事の役割について考え、調理の基礎を習得し、栄養を考えた食事の献立を立てることができるようにするため、ステップアップしながら学習が進められるよう題材構成が決められている。

〔例〕 P48～56「食べて元気に」 P84～89「できることを増やしてクッキング」

P112～118「こんだてを工夫して」

- 衣食住などの内容を関連させ、日本の伝統的な文化に関する生活に関わる内容を取り上げている。伝統文化を紹介している箇所には「伝統マーク」をつけ、児童が関心をもてるよう工夫されている。
- 学んできたことを生かして、長期休業中に、生活の課題を見つけ、解決に取り組む「チャレンジコーナー」が学期のまとめりごとに設けられている。環境や防災、伝統文化など実践の進め方や課題例・実践例が挙げられており、児童が自主的に取り組みやすくなるよう工夫されている。

〔例〕 P37、P57、P75、P103、P119 「チャレンジコーナー」

- 自分の家庭生活と地域の人々との関わりに気づき、自分が地域でよりよい関係をつくるためにどんな工夫が必要かを考えられる構成となるよう工夫されている。
- 他教科や様々な学びと関連づけて学習できるよう、関連を示すマークが記載されている。また、家電製品に使われているプログラミングの例を取り上げたり、家庭科の用語と英語訳を各ページの脚注や巻末の「ことばのページ」に記載したりしている。

〔例〕 P9、P17、P113、P119 等 関連を示すマーク  
P135、P136 ことばのページ

## 2 使用上の便宜

- 巻頭ページからP5までは、第5学年から始まる家庭科とはどのような教科であるか、またそれを学ぶ意義が写真やイラストとともに示され、児童の興味・関心を引き出すと同時に、第6学年までの二年間の学習の見通しがもてるよう工夫されている。また、家庭科学習の進め方についてイラストで具体化されている。
- 写真やイラストが大きく掲載されているだけでなく、写真では見えない部分をイラストで掲載し、実際に児童が見るアングルを表示するなど工夫がなされている。また、実寸大写真をつけたり、記述が丁寧に書かれたりしている。実習や制作の手順は横流れで統一し、見やすくなっているなど、右利き左利きにも配慮されている。ユニバーサルデザインの字体を使用し、児童が学習しやすい工夫がされている。
- 主人公の児童が生活を見つめ、地域と関わって成長していく姿が表紙で提示されていて、ガイダンスの入り口として活用できるようになっている。
- 児童が関心や意欲をもって主体的に学習が進められるように、マークやキャラクターが用いられており、理解を促す手助けとなっている。
- 児童の理解を促す役割を果たすよう、脚注には、「ひとロメモ」があり、家庭科で使われる専門的な用語が解説されている。
- 男女の区別や障がいの有無に関わらず、子どもから高齢者まですべての人が平等な関係であることを前提にして、記述や課題の設定・写真や図が工夫されている。また、家族や周囲の人との関わり大切さが認識できるよう配慮されている。
- 食物アレルギーについては関連する本文や図で取り上げ、食品や表示を確認するよう促している。

## 3 その他

- 大題材の学習の前に調理や製作における器具・用具の扱い方、作業上の安全、衛生面など、安全に注意すべき点を解説するとともに、注意喚起のための「安全マーク」が示されている。また、災害時の具体的な対応を促す「防災マーク」も各所に示されている。さらに、家庭科での安全・防災について、基本的事項を冒頭のページにまとめ、いつでも確認できるよう工夫されている。